慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	民族主義の研究（墺国に於ける独逸民族の地位）
Sub Title	
Author	田中, 萃一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1916
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.10, No.12 (1916. 12) ,p.1625(1)- 1646(22)
JaLC DOI	10.14991/001.19161201-0001
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19161201-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

廣告主へ御注文の節は三田學會雜誌廣告に依る旨御附記を望む

傷害保險兼營

普通傷害保險
海陸旅行傷害保險
內地陸上旅行傷害保險

料率低廉　契約簡便　切符販賣

東京市日本橋區本革屋町五番地（三井銀行横）

共同火災保險株式會社

營業種類　火災保險、海上保險、運輸保險、傷害保險
營業部支店所在　東京、大阪、京都、横濱、名古屋、神戸、仙臺、福岡

三田學會雜誌第十卷第十二號

論說

民族主義の研究

（墺國に於ける獨逸民族の地位）

田中萃一郎

本年の五月の中旬に英國の新聞紙の報道せる處に據れば、墺匈國の政局は全然時局監視局 Kriegsüberwachungsamt と稱する獨逸出生の一獨逸人を局長に戴ける官廳と、匈牙利首相チッサ伯とに左右せられて居るが、時局監視局は能くチッサ伯を掣肘し匈牙利の自己本位の政策は囂々と主張せらるゝほど實際に勢力は無い。墺

匈國の爾他の當局者は、墺國首相スチルグ伯でも、墺匈國外相ブリアン男でも、畢竟するに時局監視局の演奏に伴れて舞踏するに過ぎぬ。獨逸人は全く實權を掌握せるので墺匈國人の大多數は墺匈國政府に向て自主政策を執らしむるの到底不可能なるを認め、且勝敗何れにせよ獨逸と進退を共にせねばならぬと觀念して居ると云ふことであつた。匈牙利は別として墺太利では昨年の十一月に內閣に動搖を來したが內務大藏商務の三大臣の更迭を見たのみで却て對獨關係は一層密接となつたと云はれ、ナウマンの所謂『中歐國』の希望は着々として實現せられんとして來た。併し兎に角開戰以來一度も議會を召集し無いと云ふので去る十月二十日ヴイーンに於て民間有志家の大集會を催し一萬五千の名士を招待して議員その他の演說を以て政府を攻擊せんとした爲、政府は機先を制して之を禁止した。それかあらぬか翌日午後墺國首相スチルグ伯はホテルで午餐中暗殺された。而も行兇者は墺國下院議員で社會黨の首領たるヴィクトル・アドラー博士の男フリードリヒ・アドラー博士で、年齡は三十二歲、デル・カムプの主筆をして居る。『墺國のリーブクネヒトとは云れて居るが、決して發狂した譯でも無く、その自白に依れば首相が輿論を抑壓して議會を召集せざるより之に憤慨して決意したのであると云ふ。老アドラー博士はベーメン出生のユーデではあるものゝ、獨逸民族に屬する社會黨代議士の總務委員であつて、隨て少アドラー博士のこの兇行は墺國の痼疾たる民族主義の確執から來て居るのではあるまい。されど墺國に於けるこの痼疾は容易に醫治す可くもあらず、而して墺國の獨逸民族は民主々義民族主義の勢力瀰漫し來ると共に、多數のスラヴ民族に對して防勢的態度を執らねばならぬことになり、その結果獨逸帝國の後援を恃んで自己の地位を固めんことを思ふに至つた。開戰以來親獨關係の益々密切を加へて來たのは墺國に於ける獨逸民族の思ふ壺に嵌つたのである。茲に聊か民族主義研究の一資料として最近史上に於ける墺國の獨逸民族の地位に就て一言して見度い。

一

墺太利の人口總計二千九百萬人のうち獨逸民族は僅に一千萬人に過ぎぬ、爾餘の一千九百萬人のうち一千六百二十五萬人は南北各種のスラヴ民族である。そこで將來の墺太利は獨逸民族の帝國として存續するであらうか、或は一のスラヴ民

族の帝國となるのではあるまいかとの疑問さへ提出さるゝに至つたのである。勿論往時を追懷する時は墺太利は純然たる獨逸民族の帝國であつて、前後六世紀の久しきに亘つてハプスブルヒ家の帝室は獨逸の帝冠を戴き前世紀の中葉までは貴族高僧官僚は勿論のこと勞働者までもその高級のものは何れも獨逸民族で社會に地位を占めてるものは一人として獨逸人ならぬはなしと云ふ狀態であつた波蘭人やチエッヒ人の貴族は稀に議會に出るものがあつても敢て民族主義の旗幟を掲げやうとはせなんだ。然るにケーニヒグレッの一戰にラデッキー元帥脆くも敗北して、プラハの講和條約を以て獨逸に於けるプロイセンの覇權を認めてから、墺太利に於ける獨逸民族の勢力は俄然として衰へた。當時グリルパアッヱルは詩人的本能を以て『余は生れは獨逸人なるが今なほ然るか』との疑問を發したが、實に獨逸民族反對運動は忽ちにして勃興した。マジャール人先づ起りチエッヒ人之に次ぎ波蘭人も亦之に倣ふて政治上に社會上にその地位を高めんとしたのである。

文明國民が敎育の普及經濟の進歩に努力して、以て從來無視せられて居つた人民に民族的自覺心を起さしめ、糧を敵に與へて他年一日その離叛を拒ぎ得ざるに至るは所謂歷史の奇緣と申すものである。四十八年のヴイーンの革命に自由民權の主義を標榜して起つたのは獨逸民族であつたが、二十年の後にはマジャール人はこの同一の主義に訴へて墺太利より分離して兩立政治を樹立し、かくして匈牙利に於ける獨逸民族の勢力に大打擊を加へた。協約成立の日から匈牙利は急轉直下の勢を以て純乎たるマジャール國となつた。匈牙利の人口二千萬人のうち今なほ獨逸人は二百萬人あるが、實は次第に減少して居るので、西紀一八六九年には獨逸語を敎ふる小學校千二百三十二校を數へたのに今日では四百五十八校に減じた。そこで獨逸民族は匈牙利の分離は是非なしとして迫めては墺太利に於て政治上社會上その勢力を維持せんとしたが、如何にも數が乏しく是さへ至難となつて來た。尤も當初は一千五百五十萬人のスラヴ民族に對して七百五十萬人を有して居つたが、七十八年にボスニア、ヘルツェゴヴィナを占領してから不權衡は益々甚しくなつて來た。加之經濟上社會上優等な獨逸民族は劣等のスラヴ民族に比して出產率が劣つて居る。ユーデの資本が投機場裏を支配して居るとすれば獨逸人の

資本は生產社會を左右して居るので、經濟上最も墺太利の爲に盡して居るが、その文物の最も進步せる爲既に疲勞してスラヴの民衆に壓逼されて來たのである。

西紀一八九五年には波蘭人のゴルチョフスキー伯が五月に墺匈國外相に擧げられたのみか十月には同じく波蘭人たるバーデニ伯が墺國の內閣議長と爲り、且バーデニ伯は同じスラヴの血統を傳へてるチェッヒ人懷柔の政策を執て西紀一八九七年に有名な公用語令を發布した。この法令はベーメン、メーレン地方に施行さるゝもので、元來六十七年の法律第百四十二號即ち憲法の第九條を以て言語の同權を公約してあるが故、之を實行せんとして、純然たる獨逸民族住居の地方に於ても若し一人のチェッヒ人ありて官吏と應接するに方りチェッヒ語の行使を要求する時は則ち之を以て公用語と認む可しと規定し、以て獨逸語チェッヒ語の同權を確立し、ベーメン、メーレン地方の官吏をして兩語に通せしめんとした。獨逸民族はスラヴのこの勢力擴張を懌ばず、同民族に屬する議會內の各政黨は相率ゐて政府を攻擊し議會史上に類例尠きほどの議事妨害策を用ゐた。その一例を擧れば九十七年は十年每に改訂さるる墺匈國協約議定の時期なので、政府援助の諸政黨は衆を恃んで十月二十八日の會議で協約の第一讀會を結了せんと期して居つた處、ドクトル・レヒャーは立て反對演說を試み同日の夕九時十五分前から翌朝の九時十五分前まで中間五分休息せるのみで滔々として辯じて已まず、議事は實に翌日の夜まで三十三時間繼續し遂に採決を行はずして散會したこともあつた。そこでバーデニ伯辭職後公用語令を廢止したが、今度は一旦公用語令の恩典に浴したチェッヒ人がその利益を放棄するを好まずしてヴイーンの議會に於て議事妨害を開始し、而して之に對抗してベーメンの首府プラハの地方議會では少數黨たる獨逸人が議事妨害を試みてチェッヒ人の多數黨をして重要なる政務を遂行し得ざらしめた。併し西紀一八九六年のバーデニ伯の選擧法改正で新に普通選擧に依て選出された議員を下院に加へ、更に西紀一九〇七年に下院議員全部を普通選擧で選出することにしたのでスラヴ民族はその數量に匹敵せる實力を政治上に發現せざれば止まざるの勢を示して來た。

獨逸民族が從來墺太利に於て政治上社會上優越の地位を保て來たのはハプスブルヒ家帝室の威望と獨逸民族の文物進步との賜であつた。但し老帝は墺太利人

であつて獨逸人では無い、對外政策上獨逸と提携はして居るものゝ獨逸の一附庸國たることを以て甘んじて居る譯では無い。既にセラエヴォで横死された故皇儲の如きは著るしくスラヴ贔負の色を示し、爲に南方スラヴ民族の間には兩立政治の代に鼎立政治を樹立す可しとの主張さへ行はれた。要するに人口の多寡は政權の基礎となり得るので、一千萬人の獨逸人は畢竟するに一千九百萬人に敵することは出來ぬ。獨逸民族の今なほ優勢の地位を占めて居るのはチロール、フォラールベルグ、ザルツブルグ、上下墺太利、スタイエルマルク、ケルンテンの諸州のみで、爾餘の諸州に於ては到る處に民族的軋轢が開始され、而して十年毎に獨逸民族は一分づゝ減少して居るのに他の民族は總べて增加して居る。一體墺太利の獨逸人には近來まで民族的自覺が起ら無かつた。是は舊教が人心に浸潤して徒に獨逸民族の貴族の間に自由主義を標榜して起つた中等社會や金權を握れるユーデを嫉視せしめた結果と云ふ可く、實は貴族社會は多年政權を壟斷して居つたが爲痲痺昏睡の狀態に陷つたのである。個人でも民族でも有力な反抗を受けずに長く政局を左右するものは太平の夢に醉て漸次に墮落し易いものである。

試みに墺太利に於ける獨逸民族の動靜如何と見るにメッテルニヒの時代に於て拱手偸安、何等の抱負をも示さなかつたのみでなく、憲法實施後の新政府に於ても當時政權を掌握し得可き自由主義者は惜乎としてその日を暮して居つた。試みに現今の政黨に就て見るも何等の統一も無く何等の聯絡もなく、進歩黨あり民黨あり急進派あり、基督社會派あり、農民派あり、社會民主黨あり勞働者黨あり、獨逸民族統一黨あり、その互に反目して居る狀態は政治上に墮落した民族の典型と評す可きである。八十年代にターフェの首相であつた頃獨逸自由主義者の大同團結は百六十名の下院議員を擁して多少の勢力を有て居たが法令の規定を以てその地位を保ち得可しと誤解し何等の積極的政策をも建てなんだ。教育あるチェッヒ人は皆獨逸語を解して獨文の新聞を讀むのに獨逸人にはチェッヒ語を解するものは稀であつた。スラヴ民族の間には膺之會（ソコルス）と呼ぶ民族的運動が企てられ體育を名としてスラヴ民族を糾合しその民族的精神を養成して居つたが獨逸人のうちには之に對して豎子何をか爲さんと濟し込んで居るものもあつた。

曾てベーメンに遊んだ時男子の帽に鷹の羽毛を飾れるを見て何の意たるやを解せざりしが、是が西紀一八六二年に創立されたる鷹之會の徽章であつたのである。その際偶然ベーメンの首府プラハで獨逸民族協會の催に係る慈善會を訪ひこのチエッヒ人の根據地では流石に日常シュトルッな獨逸人も利權擁護の爲に奮鬪しつゝあるかと思ふて之に同情を寄せたことがあつた。實に墺太利、就中ベーメンではスラヴ人は侵略的攻勢的であり獨逸人は只管防衛の爲に苦心して居るのである。堅忍不拔な氣象に富で居て獨逸人は得意な組織で鍛へ上げ上下心を一にしてスラヴ人に當らんとして居る。中にはモーラヴと云ふ地で墓標にスラヴ文字が刻してあつたとて碑石を破碎したとか、請負業者が工夫を募集して置いてチエッヒ人の飢餓に逼れるものは之が雇傭を拒んだとか些か病的な逸事も傳へられて居るが、是は偶ま以て民族間の確執の激甚なことを示すものと見做す可きので、獨逸民族の防衛の方略は雄大な精神を根底とし、文化の水準を高めて實際的に將た又合理的に獨逸の民族主義を養成せんとして居るのである。

上述の如く言語の同權は六十七年の憲法の原則であるが、西紀一八八〇年にターフェ内閣がチエッヒ人の援助に對する報酬として所謂ストルーマイヤートの勅令でベーメン並にメーレン兩州に於てチエッヒ語を獨逸語と同じく官府語と認むることとしたので獨逸人は始めて騷ぎ出したのであつた。從來獨逸語が唯一の官府語であつたのであるから、この特權を喪失するのは一大事であると云ふので獨逸民族は防衛の急務なるを認めてその年の五月に小學校協會と云ふ有力な團體を組織した。その事務を擔任せるはミッテラーと呼ぶ舊教僧であつたが社會黨の代議士ドクトル・ベルネルシュトルファーの如きも世界主義を棄て獨逸民族擁護會設立の必要を認めて之に加盟した。協會の目的は少數の獨逸民族が多數の異民族の間に介在して之に同化さるるの危險多き地に於て學校を設立し之が經費を補助せんとするのであつた。トレンチノ方面ではスラヴ民族ならぬ伊太利人と競爭する必要もあつたが、小學校協會の最も重きを置けるはベーメン、メーレン兩州でチエッヒ人に對抗せんとするに在つた。會員の數は忽ちにして十五萬人に上り東はブコーヴィナより西はフォラールベルグに至るまで支部の數は千八百に達し、西紀一九〇八年までに小學校養育院に投じた金額は五百萬圓に近いとのこ

とである。西紀一九〇六年には歳入貳拾壹萬貳千五百圓であつたが六年の後には約倍加して居る。協會の事業は學生青年の間に特に人氣があつて、協會發行の繪葉書や彩色したスタムプは何れの煙草屋の店頭にも陳列され毎年何十萬と云ふ多數を賣捌いて居る。かゝる簡易卑近な方法に訴へて民族主義の傳道を試み併せて是が運動費を調達して居るのである。

獨逸語保護の敎育上の運動と相竝んで經濟上の保護を目的としてる有力な運動が行はれてる。その方法は獨逸の農民市民に援助を與へてその家屋田園の異民族の手に移るを妨げ、賣買の取引に際して大銀行を紹介して低利資金の融通を圖り貯蓄銀行を奬勵して獨逸民族の零碎な貯蓄を利殖し徒弟學校を設立して獨逸人の勞働者の地位を向上せしむる等である。この種の協會は全國各地に設立されてあるが、その殊に活潑に奮鬪して居るのは民族的爭鬪の最も激甚なベーメンである。ベーメンには實にこの種の協會の數、十個に上り、何れも活動して居て、ベーメン獨逸協會は西紀一九〇〇年に五百七十一の支部を有せしに十年の後には會員八萬五千人支部八百八十二を數ふるに至つた、その事業は多方面に亘れるもので或は獨逸の地主を援助して耕作地を買收せしめ又は種子、家畜、農具を分配し、或は工業學校の設立を計劃して職工に便宜を與へ、或はベーメンに移住し來れる獨逸の勞働者を保護し或は一種の職業紹介所を設けて獨逸人の失業者に糊口の資を與へてスラヴ民衆の侵略を防いで居る。然しその事業は惟り經濟上の方面にのみ止まらず、社會敎育の方面にも劃策怠り無く、西紀一九〇九年の末にはその經營に係る勞働者圖書館の數は五百三十九に上り藏書の數は十萬冊に達して居る。又プラハ大學在學の獨逸學生の爲に寄宿舍を設け奬學金を與へ、一般に對し無料を以て小冊子を配布し講演會を開いて居るが西紀一九〇九年にベーメンの村落に開會の數は五千七百三十二回と云ふ驚く可き數字を示してる。近年は又禁酒會の運動が盛に起り飲酒は獨逸思想を傷くと唱へて著るしい成蹟を擧げて居る。獨逸民族は身心相關の理から民族の精神にも留意し飽くまでスラヴ民族に屈せざらんと期して居るのである。

獨逸民族擁護運動に從事せる人々は巧みに民族の反抗心を利用してその運動費を調達して居る。例へばベーメン獨逸協會は會員の會費、有志の寄附、講演の報酬

の外に一箇八厘宛の燐寸の賣上から年額八千三百三十圓の利益を收めて居る。十枚四厘の彩色せるスタムプは民族思想の旺盛な獨逸人の好んで書狀の封じ目に貼附する處で、何百萬と賣れて居る。その他、國旗印の鉛筆や種々の意匠を凝せる繪葉書も盛んに賣れ行き、かくて學生や職工はその小使錢が富豪の寄附金に加へられて民族運動の資金となるのに滿足して居るのである。而してライヘンベルグにはこの獨逸民族防衛運動の本部ども云ふ可きものがあつて、チエッヒ人と獨逸人との日々の衝突に就て報告を蒐集し周到な研究を加へて作戰計劃を立てゝ居る。この運動の結果として獨逸人は勿論チエッヒ人も要するにベーメン全州を通じて著るしく文化を向上せしめた。無學者の數は忽ちにして減少し人民は益々富裕に向ふのみである。西紀一八八〇年には獨逸人千人に就き貯蓄銀行通帳百六十一冊强であつたのが、十年の後には二百六十二冊半となつた。獨逸人の多き都市人口の增加も迅速で西紀一八三〇年にはベーメンで住民一萬以上の都市は僅に二ケ處であつたが、二十年の後には五ケ處となり現今は增加して四十五を數ふるに至つた。但しかく民族的差別觀の極力主張せられた結果獨逸人とチエッヒ人との同化は益々困難となり、ベーメンの首府プラハの如きは却て獨逸人の減少を見るに至つた程である。

三

されば墺國に於ける獨逸人のうちにはこの防衛運動の成蹟に滿足せずして夙に獨逸に併合されんことを主張して居るものもある。元來ハーゼ教授等が獨逸に於て獨逸民族統一協會略して全獨協會 Alldeutscher Verband を組織したのは西紀一八九四年のことであるが、墺太利に於て全獨運動即ち墺太利を獨逸に併合す可しとの運動の起つたのはケートニヒグレッツ戰敗の當時に萠して居る。但し全獨主義の政界の表面に現れて來たのは西紀一八七一年の二月にホーヘンヴアルト伯がスラヴ民族の保護者として中央集權制度に反對して聯邦自立制度を執らんとしてからのことで、その主張は要するに獨逸人にして墺太利の政局を左右する能はずんば如かず獨逸と進退を共にせんにはと云ふのであつた。この運動の主唱者はゲオルヒ・シエーネラーと云ふ熱血男兒で太地主なるが上に巨萬の富をも擁し財政上毫も他人の援助を借るの必要なく隨て宮中の感情をも顧みずして敢て獨立

不羈の政治運動を試みた。その政綱は三箇條より成り第一獨逸をして墺國を併合せしむ可し第二純粹の獨逸思想を妨害する舊教々會を全滅す可し、第三同じく獨逸思想を腐敗せしむるユーデを全滅す可しと云ふのであつた、即ち帝室に反對し僧侶に反對しユーデに反對せんとする民族主義の運動である。シェーネラーは曾てヴイーンの一新聞が獨逸老帝崩御の事あるに先て號外を印刷したとて怒てその社の編輯局に闖入し記者と搭鬪して爲に四箇月の禁錮に處せられ爵位を褫がれ且議員の資格をも失ふたが西紀一八九七年の總選擧には獨逸民族黨から分離して別に全獨同盟と云ふ政派を起し之が首領として再び議會に入り次の西紀一九〇一年の總選擧には二十一人の議員を得た。但し是が全獨主義者の議會に於ける勢力の絶頂に達した時で全獨同盟は西紀一九〇四年七月を以て解散し、目下同主義者の下院に議席を占むるものは四人に減じて居る。

墺太利の舊教僧侶は獨逸帝國に於て新教國たるプロイセンが牛耳を握て居るので全獨運動には勿論好意を表して居らぬ。舊教々會反對はシェーネラーの三大政綱の一つであるが、その主張に從へば舊教々會は獨逸思想を破壞するものでこの思想の勃興に便宜を與ふるは惟り新教のみである。而してバーデニの內閣當時舊教派が御用黨であつたので僧侶反對を目標とせる離於羅馬 Los von Rom 運動は獨逸民族の間に起つて來た。西紀一八九九年に墺領シュレージェンで宗務院（カーザナル）顧問コップが新に僧侶養成の學校を設けたのが抑もの始まりで、全獨同盟は舊教々會の機關新聞が多年獨逸民族運動に冷淡なのを憤てこの年政綱の一に離於羅馬主義を掲ぐることゝなつた。かくて政府が斷然この運動を鎭壓せるにも拘はらず、全獨主義者は苟くも墺太利に於ける獨逸民族の地位を救濟せんとせば、多數相率ゐて新教に改宗せざる可からずと唱へ、ベーメン並に墺領シュレージェンに於ては獨逸民族の間に新教寺院の建立を見るに至つた。實に西紀一八九九年から一九〇六年迄に四萬七百九十七人の改宗者を出した。茲に於て墺國政府も事態容易ならずと見て益々干涉を加へたのであるが西紀一九〇一年には故皇儲フランツ・フェルヂナンド親ら進んで舊教小學校協會の總裁と爲り離於羅馬運動は即是離於墺國運動なりと聲明してこの運動に一頓挫を與へた。但し離於羅馬運動は寧ろ宗教上の理由に基けるものであるのに、全獨主義者は宗教上の利害は附帶的であると

揚言し、基督教に代るに獨逸民族固有のヴォータン禮拜を以てせんとの空想を抱けるものさへあつた。殊にその過激なるものは墺太利と獨逸帝國との關係を一層密接にせんとし、中には公々然墺太利の國體を解散せんと計劃するものさへあつた。

シェーネラー竝にその同志は當初より亦裸々にその感情を暴露したので、グラーツでは墺太利の國旗を火中に投じ、學生が宴會の席にあつた皇帝の像を棄てゝビスマークの像に更へたこともあつた。シェーネラーは西紀一八八八年の春に家宅侵入罪を犯した頃學生の會合の席上で我が光榮あるウイルヘルム皇帝の爲にとて乾杯の辭を述べたが、その秋ウイルヘルム第二世のヴィーンに行幸あるやシェーネラー商會は「我國の皇帝」として歡迎の意を表した。萬朝報式の機關新聞『醇正獨逸語』紙上でシェーネラーは西紀一九〇一年に『吾人は曾て獨逸聯邦の一部たりし墺太利諸州の獨逸帝國と親密に合同せんことを望むものなり』と云ふて居る。議會に於ける演說は更に明確なもので西紀一八九八年の十一月八日には『自分は獨逸の陸軍が墺太利を侵し之を亡ぼすの日を熱望するものである』と云ふた。試みに西紀一九〇一年二月二十八日の墺國下院の議事錄を抄出するに、全獨主義者スタイン、チェヒ議員シレネイに向ひ『君は露西亞になりたがらう僕等は獨逸になり度い』議員ホヴォルカ『君、プロイセンになり度いと高聲で言ひ給へ』スタイン『僕は高聲で云ふ、僕等は獨逸帝國と爲り度い。君は露西亞に爲り度からう。』シレネー『僕は答へる僕等は依然として善良な墺太利人で居度い。』スタイン『アヽそうか結構な事だ、併し君は愛國者では無い。今日の墺太利で愛國者があれば馬鹿だ』とある。この頃スタインは又西紀一九〇六年五月十六日の議會では『吾人は墺太利帝室國家の盛衰には全く無頓着である、之に反して吾人は結局この國家から解放されてホーヘンツォーレルン家の光榮ある帝冠の下に生息せんことを希望するものである』と述べて居る。シェーネラーが議會に於てホーヘンツォーレルン家萬歲と唱へ、スタインが之に和したこともあつたのである。

四

併しこの全獨主義者は西紀一九〇七年の普通選擧に依て行はれた總選擧にはシェーネラー、スタインの兩領袖とも落選して大に勢力を失ひ、曩にシェーネラー

ど議合はずして分離したヴォルフの獨逸急進黨は十二名の議員を得次の總選擧には稍增して二十二名と爲つた。蓋し民族主義の年と共に激甚と爲れる今日の歐羅巴に於ては優等人種の主張に基いて爾他の民族を壓抑するの政策は實行困難であるので、例へば西紀一九〇五年の墺太利改正代議院選擧法の如きベーメンでは中央のチエッヒ人の多く住める地域から七十五人の議員を出し西部北部南部の獨逸人多く住める地域から五十五人を出すやうに定めたが、メーレン竝墺領シュレージエンでは兩民族が到る處に雜居して居るので、兩州全土同一の地域に亘つて獨逸人の代議士を選出す可き選擧區二十九、チエッヒ人の代議士を選出す可き選擧區三十五（但正確に云へば墺領シュレージエンの三區は波蘭人の代議士を出す）を設け、郡村の區劃の外に更に民族の相違を參酌して別々に選擧區を定めて居る。是は實に西紀一九〇五年十一月十七日に定まつたメーレン議會の選擧法で改正前の墺國選擧法の如く選擧團體を五種に分ち、而して之に修正を加へて大地主は獨人二十人チエッヒ人十人を、市部は獨人チエッヒ人各二十人をブリン竝にオルミッツの商業會議所は各三人を、郡部は獨逸人十四人チエッヒ人三十九人を、更に普通選擧に依れる選擧區では獨逸人六人チエッヒ人十四人を選出すること丶爲したその先例に倣へるもので、選擧法上の一新例である。茲に於てか國家に於て一民族が他民族を壓抑するを不可として、國家內に於ける各民族共に對等なる可しとの思想は愈よ實現せられんとして來たのであるが、この思想を組織的に論述したのは實にルードルフ・スプリンガーの著述に係る左の二冊の書である。

Der Kampf der oesterreichischen Nationen um den Staat. Leipzig, 1902.

Grundlagen und Entwicklungsziele der oesterreichisch ungarischenmonarchie. Wien, 1906

その趣意は領土的問題即ち國家的問題と民族的問題とを分離すること宛かも政教分離の如くならしむ可しと云ふので、この學說は墺匈國の實情に最も適切なものであらうが、國家對民族の關係を研究する上に於ては大に參照に資す可きものである。ルードルフ・スプリンガーとは實は多年墺國議會附屬圖書館に奉職して居つたドクトル・カール・レンナーのことで、レンナー博士は西紀一九〇七年以來下院に議席を有し老アドラー博士に次で社會黨のうちに重を爲して居る。民族主義の軌轢を緩和せんことを期せるこの進步した學說は、或は少アドラー博士の心

を動かし今回の開戰以來獨逸帝國の後援を恃んで異民族の抑壓をこと〻せる墺太利政府に反抗して宰相暗殺と云ふが如き非常の決心を立てしめたのかも知れぬ。レンナー博士の主張の如く民族問題と政治問題とを分離す可しと云ふことになれば墺太利に於ける獨逸民族の地位は益々不利となるので、全獨主義者は今回の大亂を以て好機到れりと爲し、曾てはスタインの理想實現の機會近けりと信じて居ることであらうが果してその希望は達せらるゝであらうか。インスブルックからヴイーンまでを獨逸帝國に合併することさへ困難と思はるゝのに、チエッヒ人の根據たるベーメンをもプロイセン化せんことは不可能のことである。然るに開戰以來墺太利政府はチエッヒ人に苛酷な束縛を加へ本年六月の初には青年チエッヒ黨の首領で新スラヴ主義の主唱者として有名なベーメン第一の政治家ドクトル・クラマルシュに死刑の宣告を下したと云ふが、かゝる壓抑は寧ろチエッヒ人の憤懣を益々甚しからしむるものでは無からうか。墺太利に於ける獨逸民族の地位も亦困難なりと云はねばならぬ。

ジン・フエインの叛亂（上）

占部百太郎

一、動亂中の愛蘭——二、愛蘭人の國民性——三、英、愛兩民族の衝突——四、愛蘭の國會——五、愛蘭人の國民的運動——六、フエニアン同胞團の叛亂——七、愛蘭自治法の贊否兩面

世界の耳目がヴエルダンやガリチヤの戰場に集注せられて居た今春四月二十四日恰も基督復活祭月曜日に方つて、ダブリン市に叛亂が勃發して愛蘭共和國が宣言せられたと云ふ警報に接して世人は一方ならず驚愕した。越へて同月二十九日叛徒は無條件に降伏して巨魁以下夫れ〴〵處刑せられて、愛蘭の叛亂は殆ど全く鎮撫せられたかの外觀を呈した。然し其實餘燼は全く燃え去らず、愛蘭は今尙內面に於て甚だしく不穩の狀態に在るやうである。今回暴動の中心たるジン・フエイン結社の巨魁を首めとし、獨逸と陰謀を通じたと云はるゝサー・ロージャー・ケース